

防災教育指導資料・ホームページ等

◇ p 35 - 36 に掲載した他にも下記の資料が有効です。

「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」(平成 22 年 3 月 文部科学省)

学校安全全般に関する総合的な参考資料です。

学校保健安全法の一部改正、学習指導要領の改訂等をふまえ、安全教育、安全管理、組織活動について学校が行うべき内容が詳細に記述されています。

資料として、学習指導要領に位置付けられた安全教育の内容や「学校安全計画」例も掲載されています。



「『生きる力』をはぐくむ防災教育の展開」(平成 25 年 3 月 文部科学省)

東日本大震災を踏まえ、今後の学校における防災教育・防災管理等の在り方を示す参考資料として作成されたものです。(平成 10 年資料を改訂)

防災教育の系統的・体系的な指導内容を整理し、発達段階を踏まえた防災教育の目標とともに示されています。また、学校段階ごとに防災教育年間指導計画例や具体的な授業展開例も例示されています。



「安全に通学しよう～自分で身を守る、みんなで守る～」(平成 25 年 3 月 文部科学省)

交通安全、生活安全(防犯)、災害安全(防災)の各領域に渡って、通学時に児童自らが習得した知識に基づいて的確に判断し、迅速に安全行動をとることができるようになることを目的に作成された教材です。

映像資料で構成されており、適宜映像を一時停止させて、考えたり話し合ったりしながら学習する場面も用意されています。(小学校のみ配布)



◇ 防災に関する情報収集には次のインターネットのホームページが便利です。

高知県危機管理部・南海地震対策課

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/>

高知県の地震対策に関する総合的な情報が掲載されています。「南海地震に備えて Good!!」には、キッズコーナー(南海地震クイズ、あそぼうさいカルタ、4コママンガ)、高知県の津波浸水予測や地震予測があります。

南海トラフ巨大地震の被害想定

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/nannkai-3.html>

【高知県版第2弾】「南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測について」高知県が平成 24 年 12 月 10 日に発表した被害想定を詳しく載せています。平成 24 年 8 月 29 日に内閣府が公表した最大クラスの地震・津波をもとに、最新の地形データや構造物データを反映した精緻な推計を行うことにより、震度分布・津波浸水予測を推計しています。

高知県教育委員会事務局 学校安全対策課

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/312301/>

実践的防災教育推進事業モデル校の情報や、「土佐の防災学習プログラム」「高知県学校防災マニュアル(震災編)」「防災学習 南海地震に備えちよき」等、県教委が作成した防災教育に関する資料や学校安全の情報を掲載しています。

高知市防災対策部地域防災推進課

<http://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/12/>

高知市のハザードマップ、「高知市標高マップ」等、防災に関する情報があります。

障害者のための防災／支援マニュアル「I Z A (いざ)」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/~shougai/bousai/iza/>

高知県障害福祉課(現:障害保健福祉課)が作成した、障害がある人たちが、地震や台風、火災などの災害が起きた時、「自分を助け、誰かに助けてもらうために、そして誰かを助けるためにどうしたらいいか」「そのときのために、今、どんなことをしたらいいか」を実行するための、障害者のための防災／支援マニュアルがあります。

高知地方気象台

<http://www.jma-net.go.jp/kochi/>

高知県の地震の特徴、高知県内の気象庁観測施設などの記述があります。

岡村土研

<http://sc1.cc.kochi-u.ac.jp/~mako-ok/index.html>

高知大学理学部防災科学コース内の研究グループによるホームページです。昭和南海地震写真館などもあります。

気象庁

<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

全国の防災気象情報、気象統計情報、気象等の知識などの記述があります。また、津波防災啓発DVD「津波に備える」「津波から逃げる」も見ることができます。

防災情報のページ(内閣府)

<http://www.bousai.go.jp/>

内閣府防災担当のホームページです。「南海トラフの巨大地震対策」等、わが国の防災に関する情報について総合的な内容が豊富に掲載されています。

総務省消防庁防災危機管理 e-カレッジ

<http://open.fdma.go.jp/e-college/>

地域住民の方々、消防職員・消防団員、地方公務員等の方々が、インターネット上で気軽に防災・危機管理に関して学ぶことができます。

気象庁 はれるんランド

<http://www.jma.go.jp/jma/kids/>

学習コーナー、質問コーナー、ゲームコーナー、プレゼントコーナーがあります。

消防雑学事典（東京消防庁）

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/libr/qa/>

消防にまつわるさまざまな雑学が80近くあります。

防災教育チャレンジプラン

<http://www.bosai-study.net/top.html>

いつやってくるかわからない災害に備え、大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害にあったときすぐに立ち直る力を一人一人が身に付けるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのホームページです。

地震調査研究推進本部地震の基礎知識

<http://www.jishin.go.jp/main/index.html>

地震の基礎知識、地震活動の評価等が掲載されています。

防災教育コレクション（独立行政法人防災科学研究所 自然災害情報室）

<http://dil-opac.bosai.go.jp/documents/education/>

500点以上の防災や災害に関する絵本、児童書、紙芝居、カルタ等が閲覧できます。

地球キッズ探検隊～地震の謎にせまる

<http://www.jishin.go.jp/kids/index2.html>

子ども向けの「地震の謎にせまる」サイト

内閣府防災担当「みんなで防災」のページ

<http://www.bousai.go.jp/>

市民、学校、企業、町内会、ボランティア、NPO などの方々が、防災の取組を考えていただく際、役に立つ情報やノウハウが掲載されているページです。

稲むらの火と地震対策

<http://www.inamuranohi.jp/>

「稲むらの火」は、昭和12年～22年に渡り、国定国語読本五年生に掲載され、多くの小学生の感動を呼んだ名作です。

防災キッズミュージアム

<http://www.dri.ne.jp/kids/>

阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターによる、子ども向けの分かりやすいページです。

消防防災博物館（財）消防科学総合センター

<http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index.cgi>

インターネット上の仮想博物館です。自然災害の基礎知識をわかりやすく見て学べます。災害時の料理レシピも紹介しています。

独立行政法人・防災科学技術研究所

<http://www.bosai.go.jp/>

専門的な地震データを見るのに役立ちます。

阪神・淡路大震災教訓情報資料集

http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/hanshin_awaji/data/index.html

多くの報告書、レポートに収められた教訓・体験が体系的に整理されています。

神戸大学震災文庫

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb>

デジタルギャラリーでは、貴重な写真資料、動画資料を閲覧できます。また、一部の報告書や一次資料についてもPDFファイルが閲覧できます。

財団法人 日本建築防災協会

<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/>

我が家の耐震診断のリーフレットがダウンロードできます。

スマトラ沖地震とインド洋大津波

<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/ka8001/sumatra.html>

スマトラ沖地震とインド洋大津波に関する内外の情報や映像を閲覧できます。

文部科学省・地震調査研究推進本部

<http://www.jishin.go.jp/>

「地震調査研究推進本部の活動」から「地震調査委員会、月例会議の報告を見ると、月ごとに日本各地で発生した地震活動の評価内容が分かります。

国土地理院

<http://www.gsi.go.jp/>

「地殻活動」から現在の地殻変動情報、最近の地殻変動を見ると、GPS連続観測システムを使った地殻変動の様子などがあります。

静岡県地震防災センター

<http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/>

「災害図上訓練（DIG）」や避難所運営について学ぶ防災ゲーム「避難所HUG」等の情報が掲載されています。

III 資料

必ず発生する南海地震

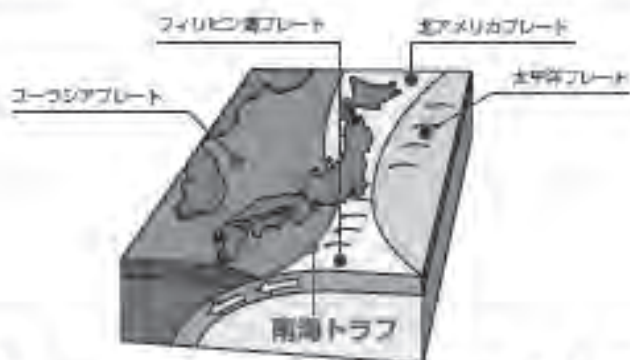
1 地震が発生する仕組み

第1章 南海地震は必ず起こる

1 地震の起こるしくみ

●キーワード●
「繰り返し 必ず発生」

地球の表面は、「プレート」と呼ばれる厚さ数十キロメートルの巨大な板状の岩盤に覆われています。このプレートは年間に数センチメートルから十数センチメートルという、非常にゆっくりとした速さで動いています。



プレートは動いている!

土佐湾沖では、フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込む動きをしています。

このため毎年毎年、2つのプレートの境界付近でひずみが少しずつたまっていきます。ひずみに耐える力が限界に達した時に、引き込まれたプレートが急に元に戻ろうと反り上がることで南海地震が発生します。

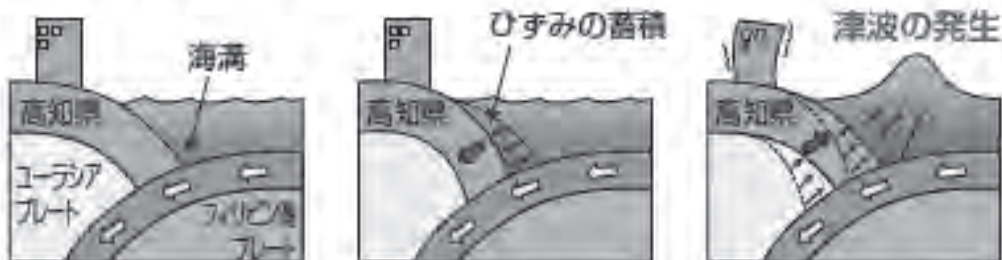
南海地震が発生すると、高知県全体が大きく揺れます。さらに、海底地盤の動きによって海面が大きく持ち上がり、その波が伝わり沿岸域では大津波が発生します。



プレート間の動き



はしんまん、地下の秘密基地で
筋トレ中

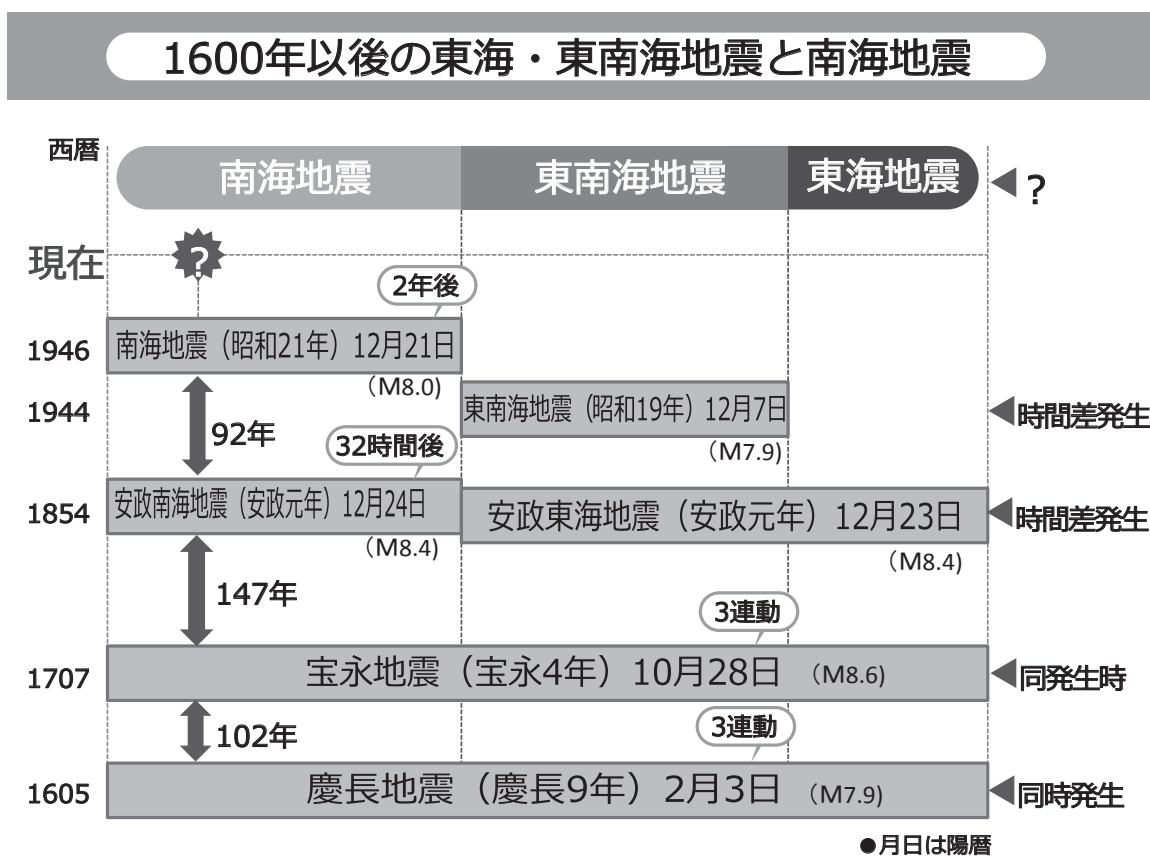


2 過去の南海地震

南海地震は、これまでおおむね 100 年から 150 年ごとに発生しています。1946 年（昭和 21 年）に発生した昭和南海地震は地震の規模が小さかったことから、エネルギーがまだ残っていると考えられ、次の南海地震は 100 年を待たず今世紀前半にも発生するおそれがあるといわれています。

過去の南海地震では、3 つの地震が同時に発生するほか、数十時間から数年の時間差で発生しています。（下図参照）

また、南海地震は通常大きな揺れと津波を伴いますが、1605 年の慶長地震では、揺れによる被害の記録があまりない一方、津波による大きな被害があったという記録が残されています。



3 南海トラフ巨大地震の性格

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震は、これまでの想定をはるかに超える巨大な地震・津波により、一度の災害で戦後最大の人命が失われ甚大な被害をもたらしました。

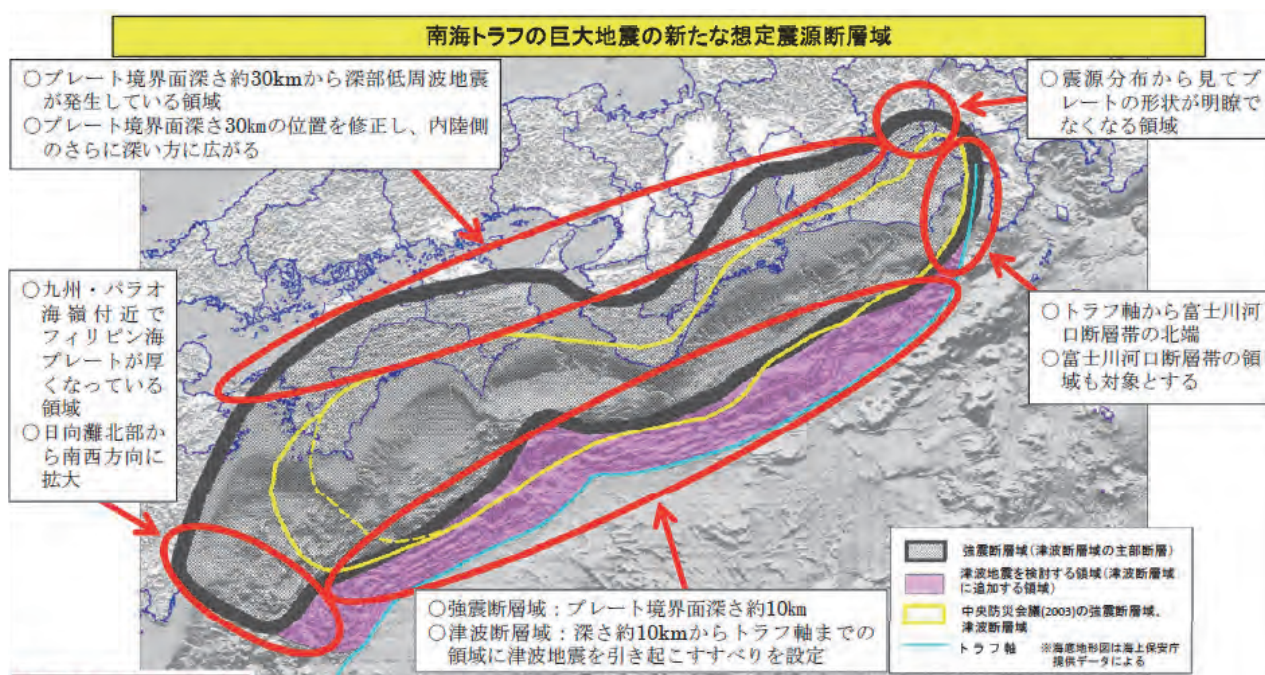
これを契機として、平成24年3月に南海トラフで発生しうる最大クラスの地震・津波が内閣府から公表されました。

これまで国が地震・津波の想定震源断層域は下図の黄色で着色されている範囲です。

これに対し、最大クラスの地震の際に動く断層の領域は、近年の高感度地震観測網の整備により深部低周波地震が観測されるようになったため、この範囲を想定震源域に加えたことなどにより、黒太線の範囲まで広がっています。

また、津波については、東北地方太平洋沖地震の研究成果を踏まえ、プレート境界面深さ 10 km から浅い範囲も高い津波をもたらす可能性があるとして、ピンク色の範囲を加えています。

このように、地震と津波の際に動く断層の領域は別々に設定され、地震の規模はマグニチュード 9.0、津波の規模はマグニチュード 9.1 となっています。



地震の規模(確定値)

	南海トラフの巨大地震(強震断層域)	南海トラフの巨大地震(津波断層域)	参考			
			2011年東北地方太平洋沖地震	2004年スマトラ島沖地震	2010年チリ中部地震	中央防災会議(2003)強震断層域
面積	約11万km ²	約14万km ²	約10万km ² (約500km×約200km)	約18万km ² (約1200km×約150km)	約6万km ² (約400km×約140km)	約6.1万km ²
モーメント マグニチュード Mw	9.0	9.1	9.0 (気象庁)	9.1 (Ammon et al., 2005) [9.0 (理科年表)]	8.7 (Pulido et al., in press) [8.8 (理科年表)]	8.7

4 南海トラフ巨大地震の予測の特徴

県では、内閣府が公表した最大クラスの地震・津波をもとに、今後県が対策を進めるうえで根幹とする最大クラスの震度分布・津波浸水予測を平成24年12月10日に公表しました。

この公表では、具体的なイメージを持って事前の備えを進めることができるよう、揺れの強さや浸水の範囲だけでなく、いろいろなデータを示しています。(下表参照)

最大クラスの地震が発生した場合、阪神・淡路大震災クラスの強い揺れが長い時間継続し、その後に、東日本大震災クラスの津波に襲われることが想定されている地域もあります。地震による揺れと津波を別々のものと考えず、津波が来る前に大きな揺れによって自宅や市街地が被害を受けて、訓練どおりに津波からの避難ができない可能性も考えておく必要があります。

なお、震度分布図および地震継続時間分布図は、強い揺れが発生する領域(強振動生成域)を、4つのケースで位置をずらして揺れの強さを推計し、それぞれの最大値を重ね合わせて表示しています。

一方、津波浸水予測時間図、津波浸水予測図については、国の設定した津波を発生させる位置が異なる11のケースの内、県内で最大の津波高が発生する6ケースにより津波の浸水を推計し、最大浸水深と最短到達時間を重ね合わせて表示しています。

公表した情報

揺れに関する情報	分かる内容
①震度分布図	どのくらい揺れが強いのか
②地震継続時間分布図	体に感じる揺れ(震度3以上)が続く時間
津波に関する情報	分かる内容
③津波浸水予測時間図	避難行動が取れなくなる高さ(30cm)の津波がやってくる時間
④津波のアニメーション	どういうふうに津波がやって来るのか
⑤津波浸水予測図	津波による最大の浸水の深さと浸水する範囲
⑥津波浸水深時間変化図	津波からの避難を継続しなければならないおよその時間
⑦津波浸水深・津波痕跡重ね合せ図	津波浸水予測や過去に発生した津波で「同じもの」は一つもないこと

・震度分布予測を行った4ケースの設定

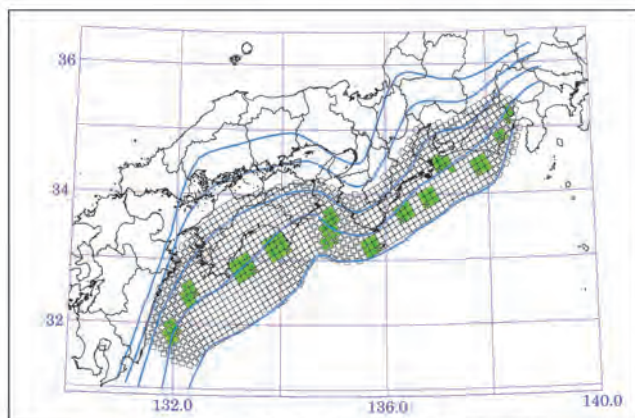


図 強震動生成域の設定の検討ケース(基本ケース)

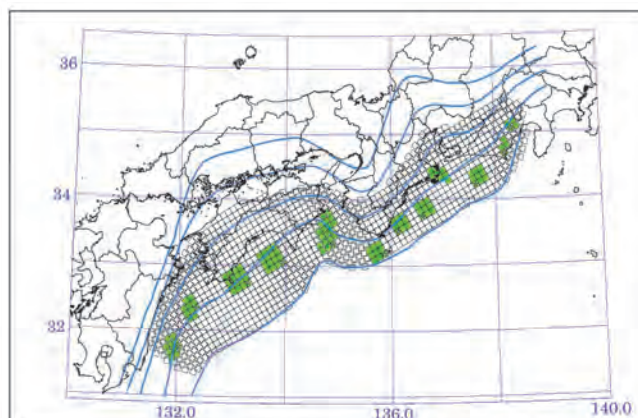


図 強震動生成域の設定の検討ケース(西側ケース)

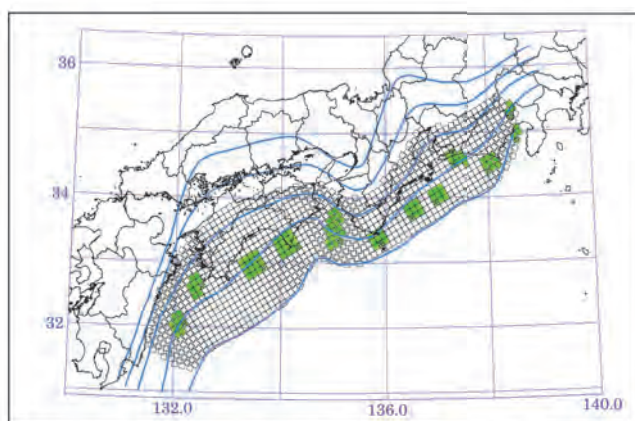


図 強震動生成域の設定の検討ケース(東側ケース)

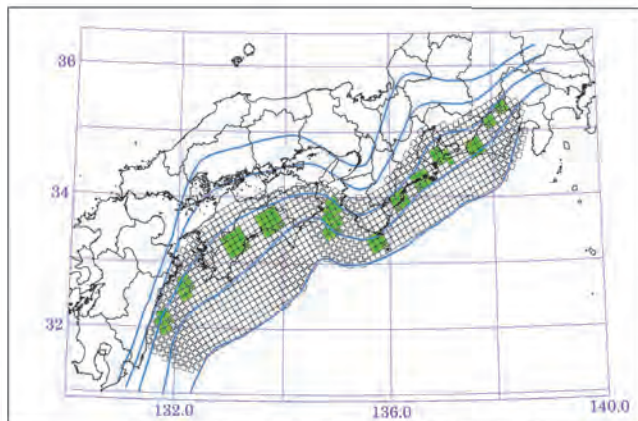
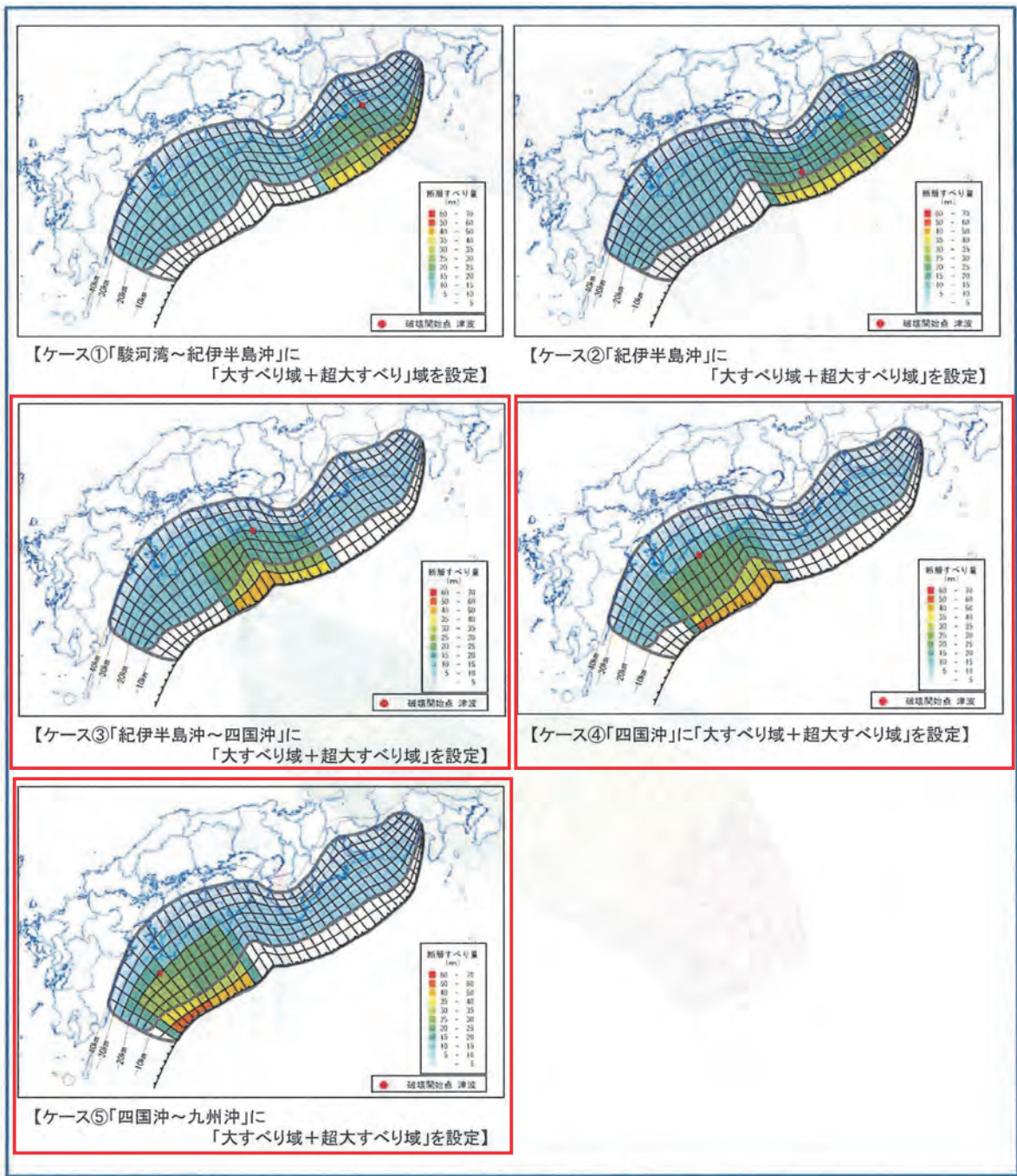


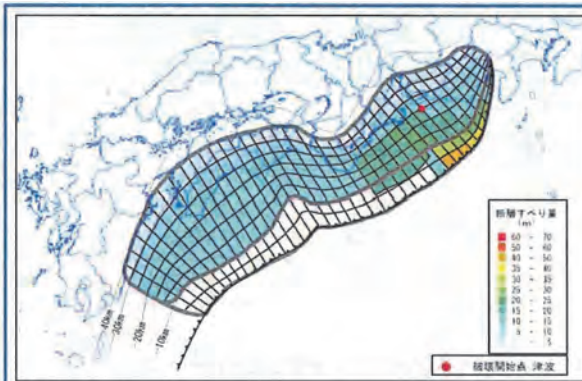
図 強震動生成域の設定の検討ケース(陸側ケース)

※緑色で示した区域が強い揺れを発生させる領域（強震動生成域）を示しています。

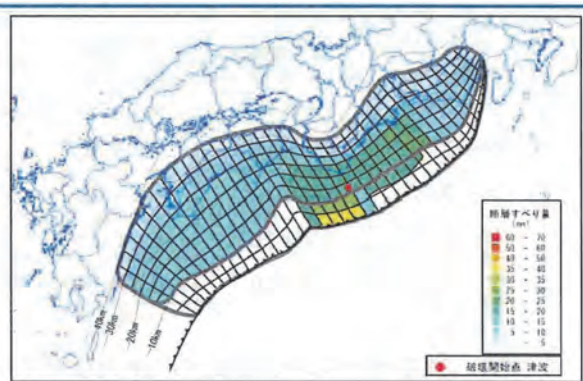
・津波浸水予測を行った6ケースの設定



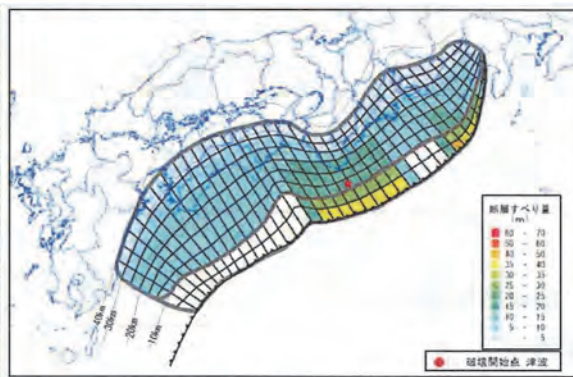
※赤枠で囲んだケースにより推計しています。



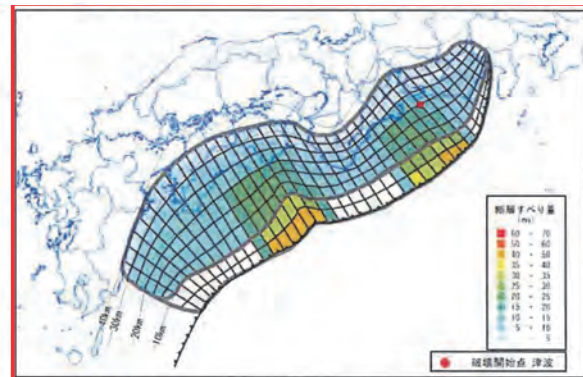
【ケース⑥「駿河湾～紀伊半島沖」に「大すべり域+(超大すべり域、分岐断層)」を設定】



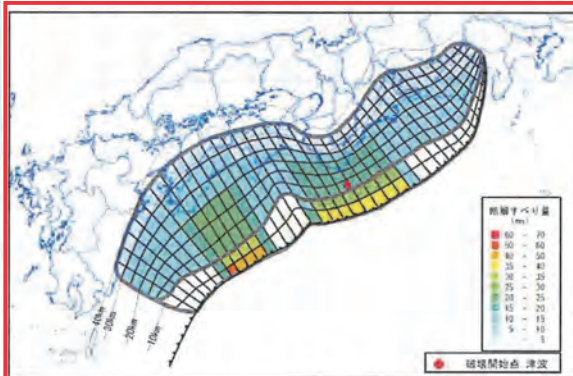
【ケース⑦「紀伊半島沖」に「大すべり域+(超大すべり域、分岐断層)」を設定】



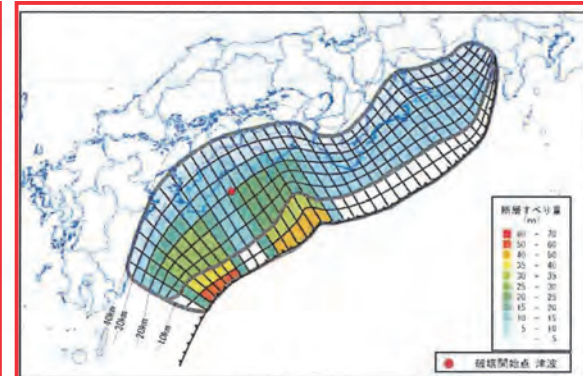
【ケース⑧「駿河湾～愛知県東部沖」と「三重県南部沖～徳島県沖」に「大すべり域+超大すべり域」を2箇所設定】



【ケース⑨「愛知県沖～三重県沖」と「室戸岬沖」に「大すべり域+超大すべり域」を2箇所設定】



【ケース⑩「三重県南部沖～徳島県沖」と「足摺岬沖」に「大すべり域+超大すべり域」を2箇所設定】



【ケース⑪「室戸岬沖」と「日向灘」に「大すべり域+超大すべり域」を2箇所設定】













※赤枠で囲んだケースにより推計しています。

○揺れ

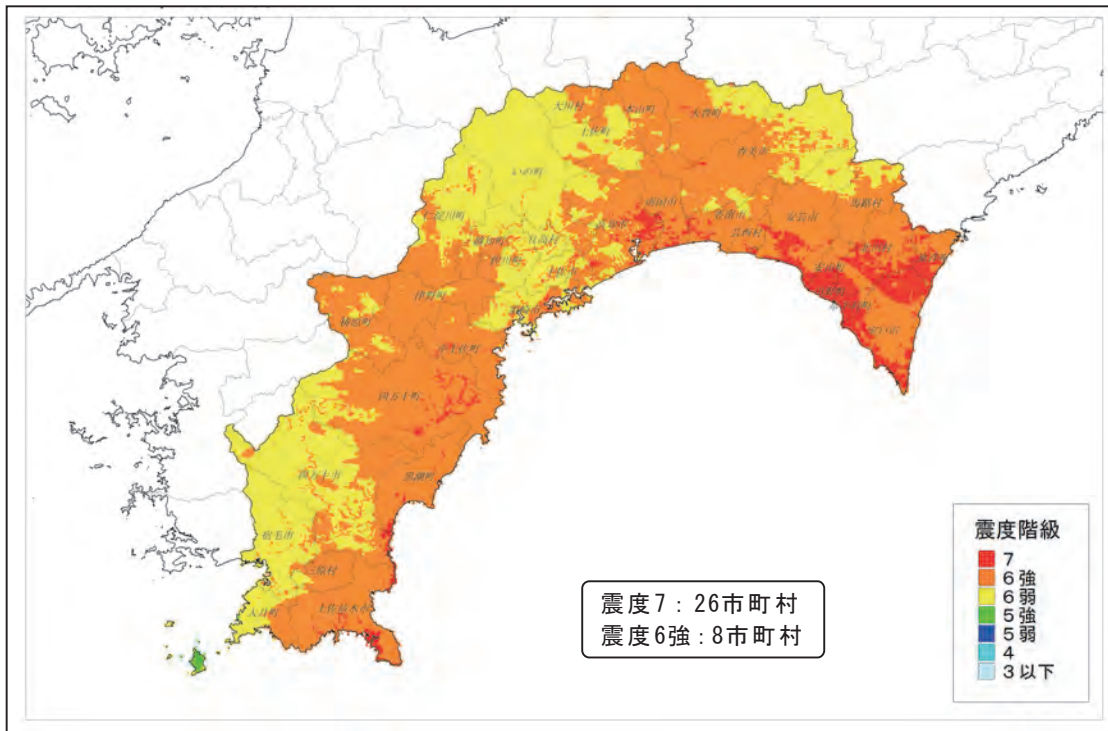
県内では、26市町村で震度7の揺れが予測されています。さらに、体に感じる揺れ（震度3程度）から強くなり、再び震度3程度に落ち着くまでの時間が3分を超える場合があることも想定されています。

この時間内はその場から動けない可能性がありますので、机の下などに潜り、机の脚などを持って頭や体を守ることが必要です。また、津波が来る可能性がある沿岸域では、動けるくらいの揺れになったらすぐに避難を開始しなければなりません。

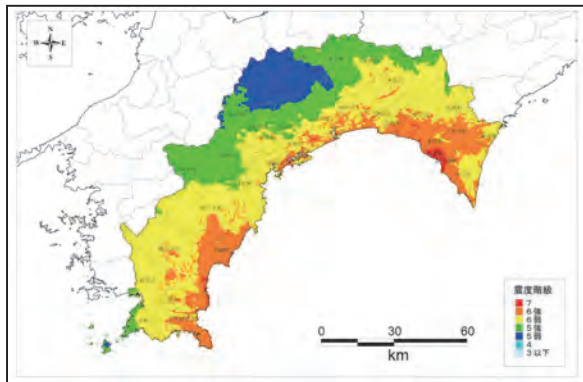
気象庁震度階級関連解説表（抄）

震度階級	人の体感・行動	固定していない家具の状況	屋外の状況	耐震性の低い木造建物	斜面等
5弱	物につかまらな いと感じる。 	移動するこ とがある。 	まれに窓ガラスが割れて 落ちることがある。	軽微なひび割れ・亀裂が みられることがある。	落石やかけ 崩れが発生 することが ある。
5強	物につかま らないと歩 くことが難 しい。 	倒れること がある。 	補強されていないブロッ ク塀が崩れ ることがあ る。 	ひび割れ・亀裂がみられる ことがある。	
6弱	立っている ことが困難 になる。 	大半が移 動し、倒れ るものも ある。 	壁のタイルや窓ガラスが 破損、落下することがあ る。	倒れるものもある。 	かけ崩れや 地すべりが 発生するこ とがある。
6強	立っていら れず、はわ ないと動け ない。飛ば されること もある。 	ほとんどが移動し、倒れ るものが多くなる。	補強されていないブロッ ク塀のほとんどが崩れる。	傾くものや、倒れるもの が多くなる。 	かけ崩れが 多発し、大 規模な地す べりや山体 の崩壊が発 生すること がある。
7		ほとんどが移動したり倒 れたりし、飛ぶこともある。	補強されているブロッ ク塀も破損するものがある。	傾くものや、倒れるもの がさらに多 くなる。 	かけ崩れが 多発し、大 規模な地す べりや山体 の崩壊が発 生すること がある。

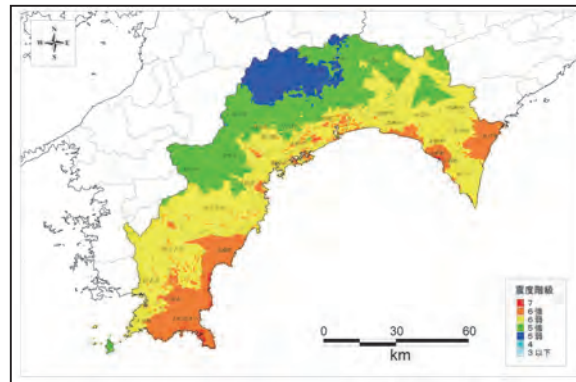
震度分布図（最大クラスの重ね合せ）



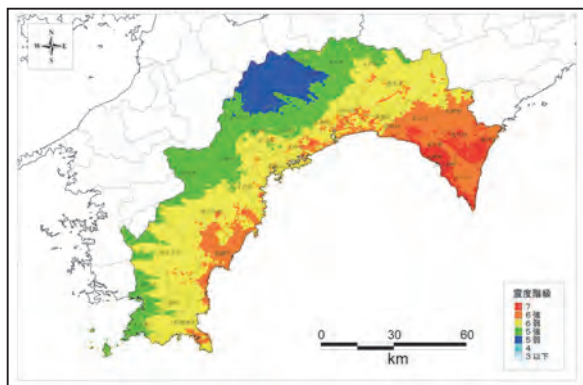
4つのケースを重ね合せ



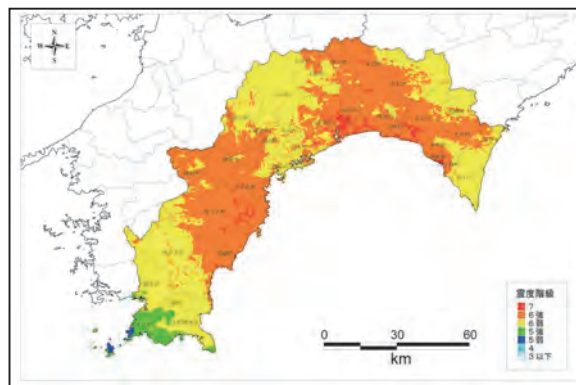
基本ケース



西側ケース

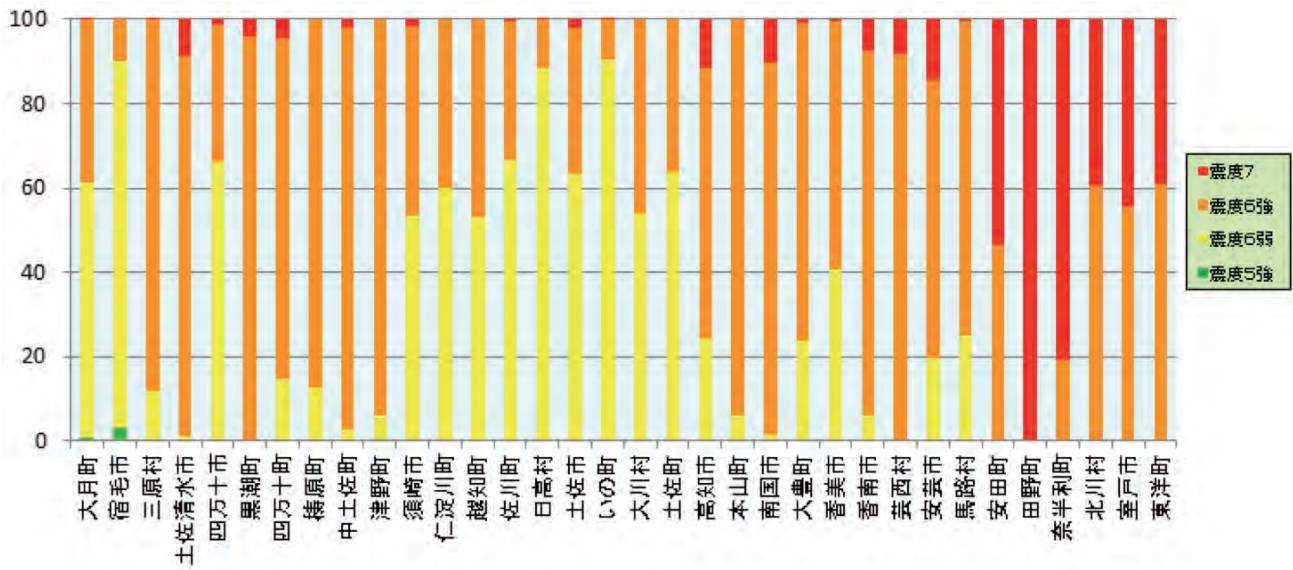


東側ケース

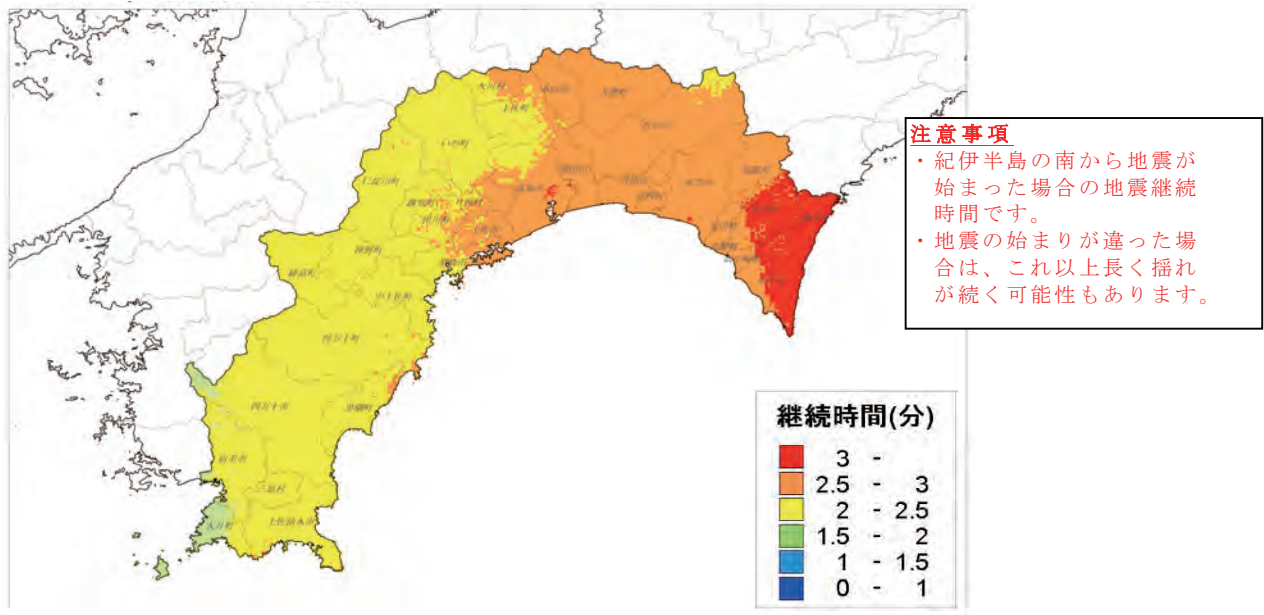


陸側ケース

最大震度の占める面積割合（市町村単位）



地震継続時間分布図（震度 3 程度以上，最大クラスの重ね合わせ）



○津波

津波は水深の深い所では、ジェット機並みのスピード(時速700km)で陸地に向かいます。水深が浅い所では遅くなりますが、それでも100mを10秒程度で来るため、津波を確認してから逃げたのでは逃げきれません。

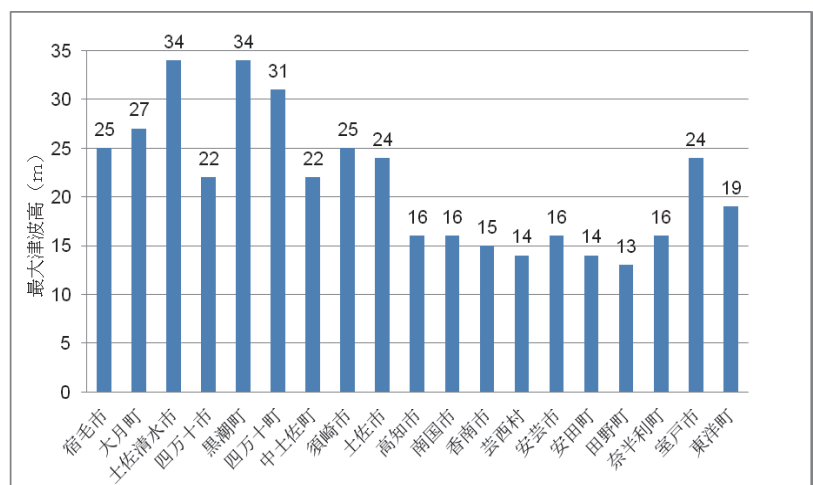
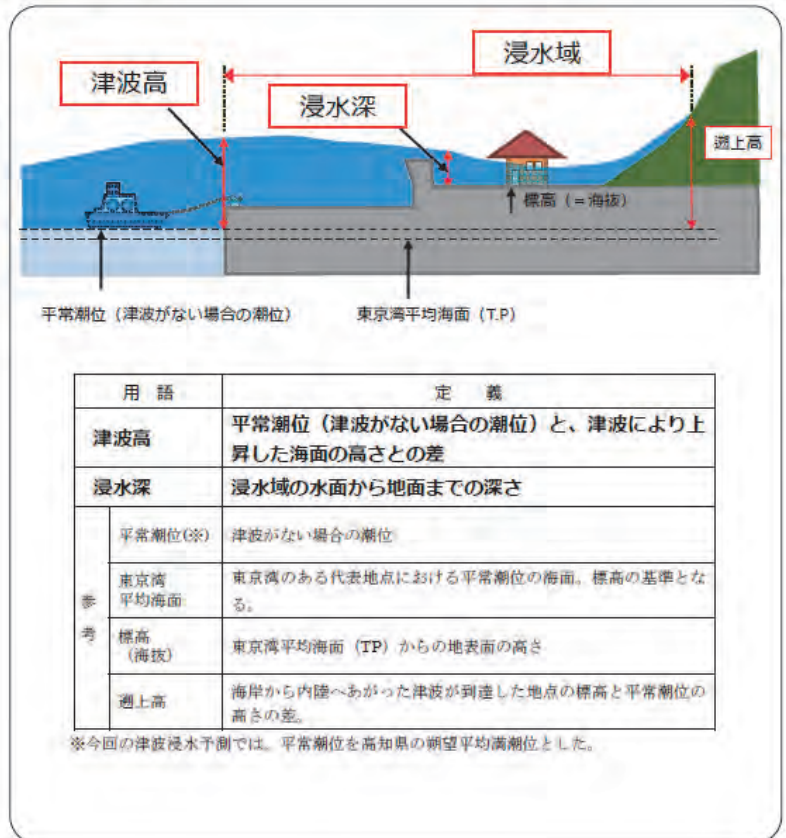
津波は室戸岬や足摺岬に近い地域ほど短時間で到達し、海岸線に1mの津波が到達する最短時間は、室戸市で3分、高知市にも16分で到達することが予測されています。しかし、津波が陸上に押し寄せて避難が困難になるには、この時間よりまだ余裕がありますので、決してあきらめず最善を尽くして避難しなければなりません。

(1) 基本用語について

一方、最大クラスの津波が発生した場合、県内では最大で約18,000haが浸水することが予測されています。そして、その浸水域には約38万人が居住しています。

海岸線の最大津波高については、沿岸の全市町村で10mを超えることが予測されています。

土佐清水市、黒潮町、四万十町では、30mを超える最大津波高が予測されていますが、これは岬の先端や切り立った崖といった地形の特性により高い津波高となったものです。



海岸線での最大津波高

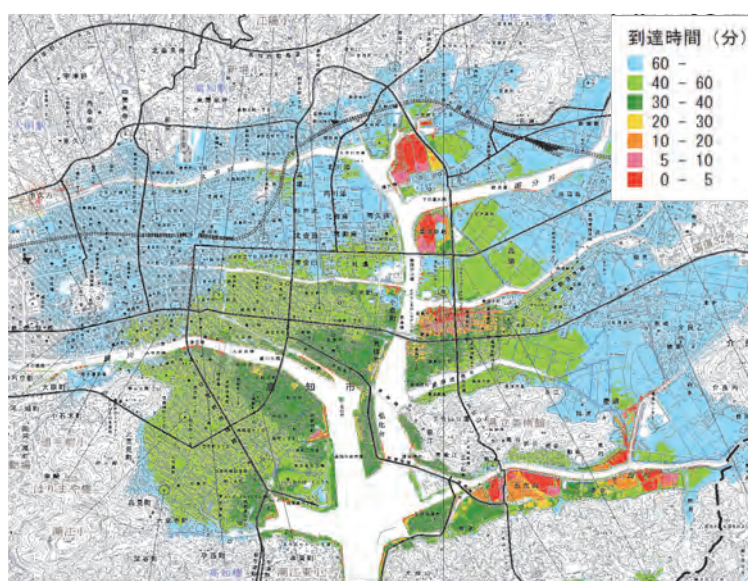
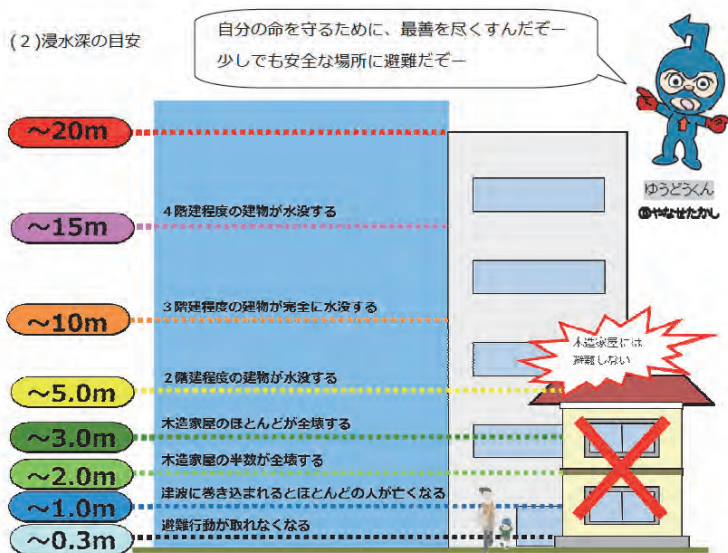
津波の浸水深が30cmに達すると、足を取られて避難することが困難になります。また、1mの津波に巻き込まれると、ほとんどの人が亡くなってしまふことが分かっています。

津波は、揺れにより倒壊した家屋によって方向が変わることや、道路を『走る』ことで予測より早く到達することがあります。また、標高の低い土地では津波が来る前に水が入ってくる地域もあります。

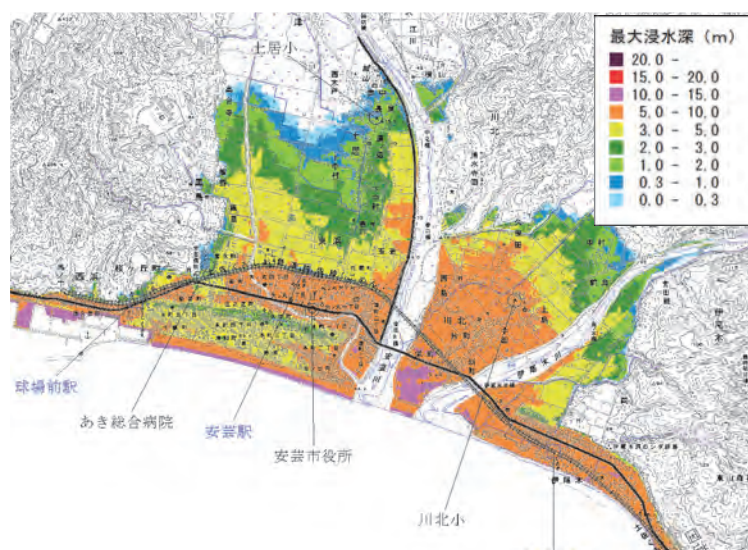
動けるくらいの揺れになったら、すぐに避難しなければなりません。

一方で、津波による浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響などにより、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

このため、避難場所を検討する際には、さらにもう一段高い所にすぐ上がれるような高台を選定することが重要です。近くに高台がない場合は、津波に対して安全な建物や津波避難タワーを避難場所として検討します。



津波浸水予測時間図
(高知市, 最大クラスの重ね合わせ)

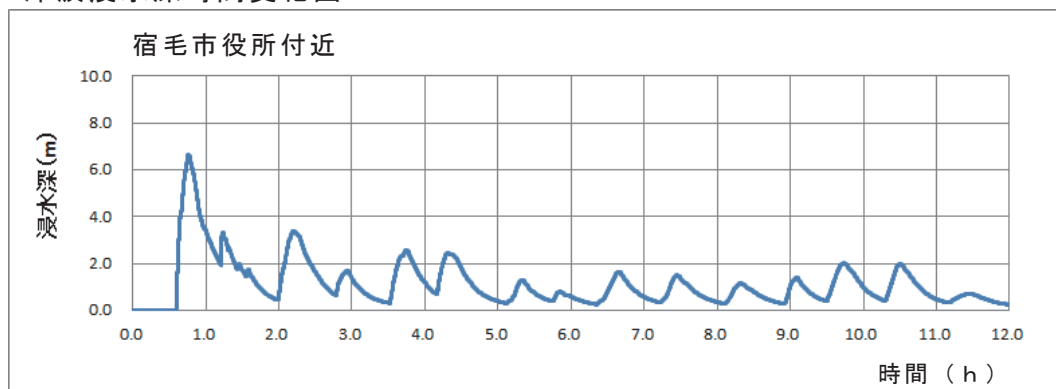


津波浸水予測図
(安芸市, 最大クラスの重ね合わせ)

さらに、津波は土佐湾で反射を繰り返し、下図のように6時間以上繰り返し押し寄せてくる地域もあります。また、津波は第一波が押し波から始まることもあることや、第二波、第三波などの後続波の方が大きくなる可能性もあります。

警報解除までは決して家に戻らず、避難を続けなければなりません。避難場所に長時間滞在しなければならないことも、あらかじめ検討しておく必要があります。

津波浸水深時間変化図

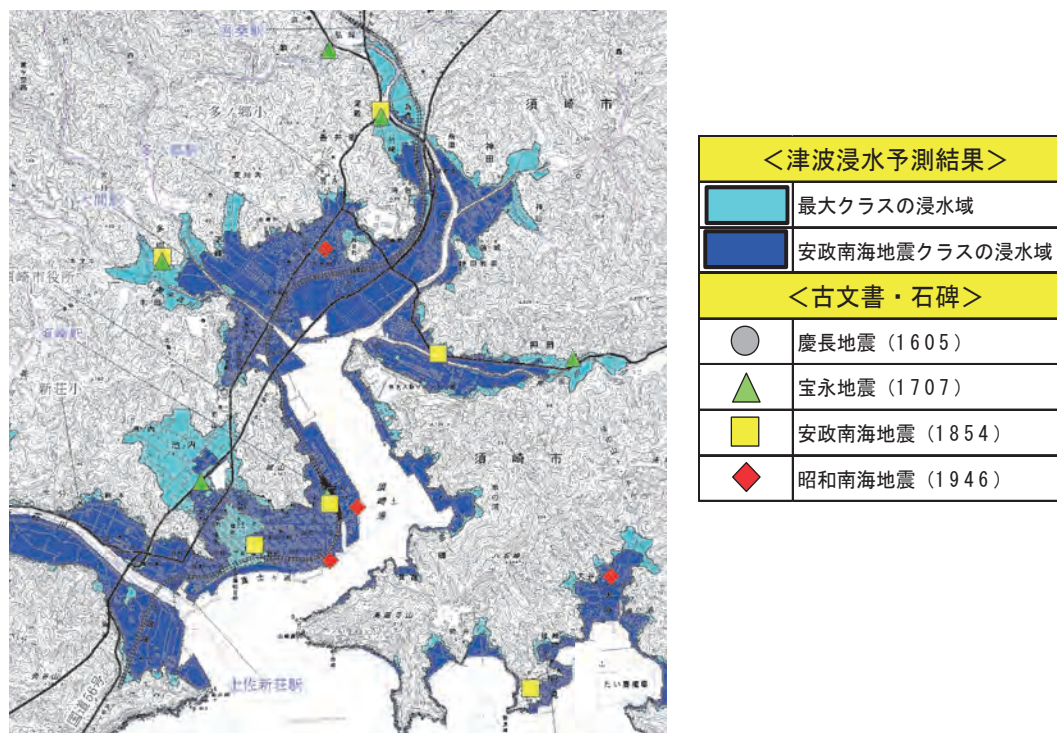


今回想定した南海トラフ巨大地震が起こったときの津波（最大クラス）に加えて、県がこれまで防災対策の前提にしてきた安政南海地震クラスの津波（比較的発生頻度が高いクラス）や、「このあたりには津波が来た」と記されている津波痕跡（古文書や石碑）のあるポイントを下図に示します。

これを見ても分かるように、同じ津波は一つとしてありません。しかし、発生した時点ではどの程度の規模かが分からないため、最善を尽くして避難することが大切です。

想定と違うことも起こりうることを忘れないようにしなければなりません。

津波浸水域・津波痕跡重ね合せ図（須崎市）



5 南海トラフ巨大地震から命を守るために

最大クラスの震度分布・津波浸水予測は、本県にとって非常に厳しい結果となっていますが、このことで、いたずらに不安をあおったり、想定を過信して油断に繋がったりすることがあってはいけません。地震・津波の特性を正しく理解し、しっかりと備えていくことが重要です。

また、どんなに大きな地震や津波でも、事前に備えることで必ず被害を減らすことができます。次のページに示した、「地震・津波に立ち向かうための3つのポイント」を念頭に置き、取り組みを積み重ねていくことが大事です。

地震・津波を「正しく恐れる」ための考え方

- ◆ 南海トラフ巨大地震による揺れと津波の対策を具体的に進めるためには、対象となる地震・津波がどの程度のものなのか、具体的なイメージを持つ必要があります。
- ◆ そのため、東日本大震災で得られた最新の知見に基づき、現時点で最大クラスと思われる地震・津波を想定しています。
- ◆ 最大クラスの地震・津波の発生確率は極めて低いものの、こうしたことも起こり得るということを念頭に置いておく必要があります。
- ◆ ただ、地震・津波はこの想定どおりに起こるとは限りません。また、いつ起こるのかについても現在の科学をもってしても正確には分かりません。
想定はあくまで可能性の一つであることを認識する必要があります。
- ◆ 想定を見て、いたずらに怖がることなく、かといって油断することもなく、地震・津波の特性を正しく理解をし、きちんと備えることが重要です。

地震・津波に立ち向かうための3つのポイント

① 事前の備えが大切。あなたの命を守るのはあなた自身！

事前に備えておけば、被害は必ず減らすことができます。住宅の耐震化や家具の固定など、自分を守る事前の備えを実行しましょう。

○ まずは揺れから身を守る

揺れによってけがをすると迅速に避難できなくなります。まずは揺れから自分の身を守ることが重要です。

② 思い込みは禁物。想定にとらわれるな！

実際の津波は、今回公表した津波浸水予測図の浸水域の境界線でピタリと止まるわけではありません。今回の想定は、多くの可能性の一つに過ぎませんので、どんな場合でも「我が家は安心」といった油断はせず、非常事態に備える意識を持ちましょう。

○ とにかく早く少しでも高い所へ

局所的な地面の凹凸や建物の影響などで、浸水深がさらに深くなる場合もあります。最善を尽くし少しでも安全な場所に避難しましょう。

③ 取り組みに無駄は無い。できることから実行を！

一つひとつの取り組みを積み重ねることで、日々の安全度が向上します。大切な家族を守るためにも、今すぐできることから取り組みましょう。

○ 例えば、寝室から

今すぐ住宅の耐震化に取りかかれなくても、家具を固定することで揺れに対する安全性が高まります。寝ている間に地震が起きても、とっさに避難できるよう、まずは寝室から対策を始めましょう。

【参考文献】

- 「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育 文部科学省 平成 22 年 3 月
- 小学校学習指導要領 解説 文部科学省 平成 20 年 3 月
- 中学校学習指導要領 解説 文部科学省 平成 20 年 3 月
- 高等学校学習指導要領 解説 文部科学省 平成 21 年 3 月
- 安全教育プログラム 東京都教育委員会 平成 23 年 3 月
- みやぎ学校安全基本指針 宮城県教育委員会 平成 24 年 10 月

高知県安全教育プログラム策定委員会 委員

- ◎矢守 克也 京都大学防災研究所 教授
片田 敏孝 群馬大学大学院 工学研究科 教授
藤田 大輔 大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター長
小川 和久 東北工業大学 共通教育センター教職課程部 教授
土居 清彦 日本防災士会高知県支部 支部長
井上 光夫 高知県小中学校PTA連合会 会長
岡 敦子 高知市立旭小学校 校長
宮田 龍 高知市立潮江中学校 校長
浪越 一郎 高知県警察本部 交通部参事官
堀田 幸雄 高知県危機管理部南海地震対策課 課長
池 康晴 高知県立高知追手前高等学校 校長
渡辺 豊年 高知県立高知若草養護学校 校長
◎…委員長

災害安全ワーキングメンバー

- 岡田 兼治 南国市立大湊小学校 校長
田頭 克文 高知県立須崎高等学校 副校長
福井 徹 高知県立高知若草養護学校 教頭
大原 康司 高知県立高知若草養護学校 教諭
有光 郷司 高知県危機管理部南海地震対策課 主幹
岡崎 恵子 高知県教育委員会事務局東部教育事務所 指導主事
小杉 龍司 高知県教育委員会事務局中部教育事務所 指導主事
小野川 憲 高知県教育委員会事務局西部教育事務所 指導主事

『高知県安全教育プログラム（総論）（震災編）』

発行 平成25年3月
発行者 高知県教育委員会事務局 学校安全対策課
〒780-0850 高知市丸ノ内1丁目7番52号
TEL：088-821-4533
FAX：088-821-4546